

## 後期終業式 式辞

本日で令和5年度の教育活動が終了します。次年度に向けて、1つお話しをさせていただきます。

「風が吹けば桶屋が儲かる」このことわざは、何か事が起こると、めぐりめぐって意外なところに影響が及ぶことのたとえで、江戸時代から言い伝えられています。ところで、なぜ風が吹けば、一見全く関係のない桶屋が儲かることになるのでしょうか。その理屈は次の通りです。

- ① 風が吹くと、土埃が立つ
- ② その土埃が目に入ると、失明する人が増える
- ③ 失明した人は、三味線で生計を立てることが多い
- ④ 三味線を作るためには、猫の皮が必要になる
- ⑤ 猫が減るので、ネズミが増える
- ⑥ ネズミが増えると、桶がかじられる
- ⑦ その結果、桶の需要が増え、桶屋が儲かる

さて、このような現象が、令和の時代になっても本当に起きているのでしょうか。最近の出来事でこれに相当するようないくつかの現象が報告されています。例えば「新型コロナウイルスの蔓延により、小麦粉が売り切れた」ということはその一例です。理由は、新型コロナウイルスの蔓延により、感染拡大防止のために緊急事態宣言が発令され、家で過ごす人が多くなりました。さらに、学校が休校になり、自宅で料理やケーキ作りをする親子が増えたとのことです。その結果、小麦粉が飛ぶように売れ、店頭からなくなる現象が起きたとのことです。

急速に科学技術の発展やグローバル化が進み、IT・AI技術の進歩が目覚ましい中、未来に何が起こるのか予想することが難しくなっています。自分の成功や失敗とその因果関係についても見えないものが多く、自分の計画したとおりにいかないことも珍しくないでしょう。1999年にスタンフォード大学の心理学者ジョン・D・クランボルツ教授が「計画的偶発性理論」という論文を発表しました。その内容は、成功した人を調査したところ、成功のきっかけとなった出来事の8割が、本人の予想しない偶然の出来事だったそうです。クランボルツ教授は、このようにまとめています。成功を築くために、偶発の出来事が起こるのを待つのではなく、みずから引き起こすべく行動することがポイントとなる。具体的には、以下の5つの行動特性を持つ人にチャンスが訪れやすいと考えられています。

1. 好奇心:新しいことに興味を持ち続ける
2. 持続性:失敗してもあきらめずに努力する
3. 楽観性:何事もポジティブに考える
4. 柔軟性:こだわりすぎずに柔軟な姿勢をとる
5. 冒険心:結果がわからなくても挑戦する

この行動特性を自分のものにするために大切なことは1つです。それはいつも前向きな気持ちを持っていることです。この前向きな気持ちにより、チャンスを引き寄せ、目の前のチャンスに気づくことができ、成功につながるとされています。

以前、皆さんに大谷選手が作った「マンガラート」の話をさせていただきました。大谷選手は野球選手として成功するために必要な要素として、「人間性」、「メンタル」そして「運」といった、一見技術向上には無縁の要素を考えました。例えば、相手に笑顔で挨拶する、ゴミ拾いをする、部屋の掃除をする、相手を思いやるなど、何気なしに行っている他人と自分に「プラスになること」は、前向きな自分を形成し、成功へと導いているというものです。

現代社会を生きていく上で、人との関わりを切り離すことができません。自分の行為や言動は、間接的に・複雑に他人に関係し、影響を与えることが多いと考えられます。他人と自分に「プラスになること」は、知らず知らずのうちに前向きな気持ちを作り、他人に好印象を与え、自分の夢や希望の実現につながっています。そして、皆さんを成功へと導く可能性があります。

今日お話ししたことを、今後の学校生活の参考にしてください。みなさんにとって、実りある高校生活が次年度も迎えられるよう願っています。

令和6年3月22日

兵庫県立西宮香風高等学校長 桑田 圭介